for immediate release
30 March 2005

報道各位

「原子力長計中間とりまとめ国際評価パネル」事務局
（環境エネルギー政策研究所気付）

核燃料サイクル政策を評価する

「原子力長期計画中間とりまとめ」についての国際評価パネル発足のお知らせ

このたび、日本の核燃料サイクル政策に関心を持つ学者が集い「原子力研究開発利用長期計画」（原子力長計）の中間とりまとめを評価する「原子力長計中間とりまとめ国際評価パネル」（座長：吉岡斉、九州大学教授）を、海外の識者とともに立ち上げましたのでお知らせいたします。

日本政府は、2004 年 6 月、原子力委員会のもと、五年ごとの見直しを行う「原子力研究開発利用長期計画」（原子力長計）の策定会議を発足、新計画に向けた議論を開始しました。策定会議は、今年夏にも新しい原子力長計をとりまとめる予定です。昨年 11 月に発表された中間報告では、特に、来年早々にも使用済み燃料を使ったアクティブ試験に入るとされている六カ所再処理工場について、これまで通りの政策を堅持するという方向性がとりまとめられました。

六カ所再処理工場の始動は、昨年の経済産業省によるコスト試算隠しスキャンダルで明らかとなったように、当初予想されていたよりも大幅に超過する見込みである事業費が深刻な問題となっています。また、アジア地域初の大型商業用再処理工場の稼働による余剰プルトニウム保有問題は、安全保障の観点から、国際的にも大きな議論を呼んでいます。

今回の国際評価パネルでは、核燃料サイクル政策について徹底した議論を経てきたアメリカ、イギリス、フランス、ドイツの各国より、議論の中で中心的役割を担っている識者を招き、国際的な評価基準に照らして日本の核燃料サイクル政策を評価します。また、日本からは、原子力政策に関わる学者・識者たちが参加するほか、策定会議委員でもある吉岡斉九州大学教授がパネル全体の座長を努めます。なお、この研究は高木仁三郎市民科学基金（http://www.takagifund.org）の委託研究として行われるものです。

「原子力長計中間とりまとめ国際評価パネル」海外側パネル委員

◎　フランク・フォン・ヒッペル、アメリカ：プリンストン大学教授。前ホワイトハウス科学技術政策局国家安全保障会議副議長。核・原子力政策の国際的な権威で、その発言は米国内だけではなく国際的に大きな影響力を持つ。「市民科学」の提唱者。
◎　フレッド・バーカー、イギリス：エネルギー政策コンサルタント。英国放射性廃棄物処分委員会(英国政府の指名した独立委員会) 委員。原子力・核燃料サイクルに関する経済性評価の権威。
◎　クリスチャン・キュパース、ドイツ：エコ研究所。ドイツ放射線安全委員会、標準化委員会委員。ドイツ原子力安全委員会委員長の同研究所のミヒャエル・ザイラー氏とともに、原子力安全研究の国際的権威。
◎　マイケル・シュナイダー、フランス：国際エネルギーコンサルタント。ドイツ政府、フランス政府などの原子力政策アドバイザー。前 WISE-Paris 代表。国際 MOX 評価研究で「もう一つのノーベル賞」を受賞。

「原子力長計中間とりまとめ国際評価パネル」日本側パネル委員

吉岡斉、九州大学大学院教授　（評価パネル全体座長）
飯田哲也、環境エネルギー政策研究所所長
海渡雄一、弁護士
橘川武郎、東京大学社会科学研究所教授
藤村陽、京都大学大学院理学研究科助手
協力　　特定非営利活動法人　原子力資料情報室

CONTACT:　「原子力長計中間とりまとめ国際評価パネル」事務局
（特定非営利活動法人環境エネルギー政策研究所気付）
phone: 03-5366-1186, FAX: 03-3358-5359